寫眞週報

情報局編輯

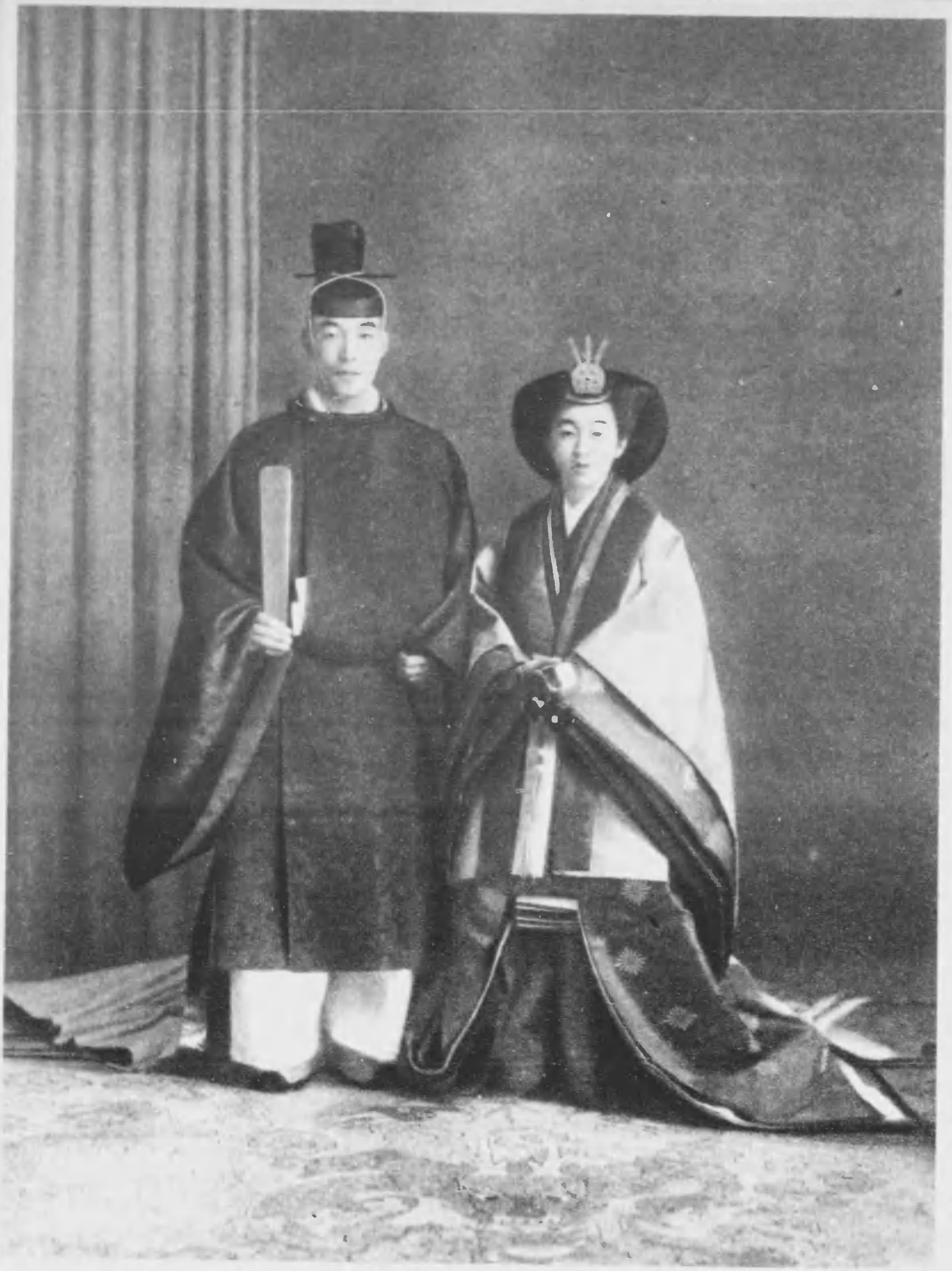
十月廿七日・第二百九十五號・十セン

眞白玉（ましらたま）これはこれ日本の土に實りし米
默々と地に匐ひ陽にさらされ
身を楯となして風雨を防ぎ
粒々辛苦に實りし
これはこれ尊い戰果
この戰果民みなの戰ふ糧（かて）と
日の丸の旗たてて捧げる心の尊さ
朝夕にこの糧に謝し
われらただ戰ひに身魂を捧げん
これはこれ戰ふ國の戰ふ糧ぞ

新穀を感謝して

「時の立札」は[illegible]轉載その他に[illegible]

幾千代の契り御めでたし　東久邇宮盛厚王殿下　同妃成子内親王殿下



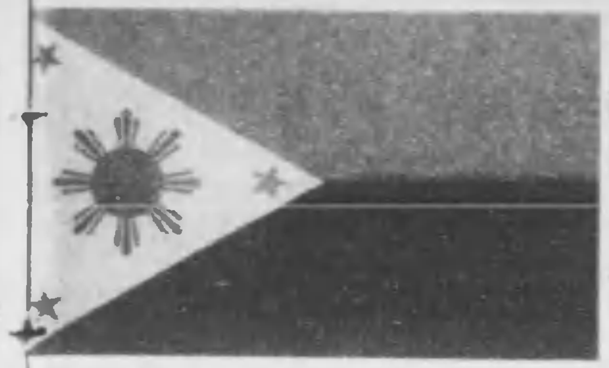
東久邇宮盛厚王殿下と照宮成子内親王殿下との御めでたき晴れの御婚儀は、十月十三日、瑞氣たなびく大内山の賢所大前において、いとも厳かに擧げさせられた

決戰下長くも諸事御簡素にとの御内沙汰ながら、一億蒼生の歡喜は全土に充ち滿ちて、竹の園生の彌榮えを心から壽ぎ奉つたのであつた

東久邇宮家御貸下

輝かしフィリピン國獨立の日

十月十四日



フィリピンの新國旗、日星旗、色は上部が青、下部が赤、左端三角形は白、太陽と星は金色である

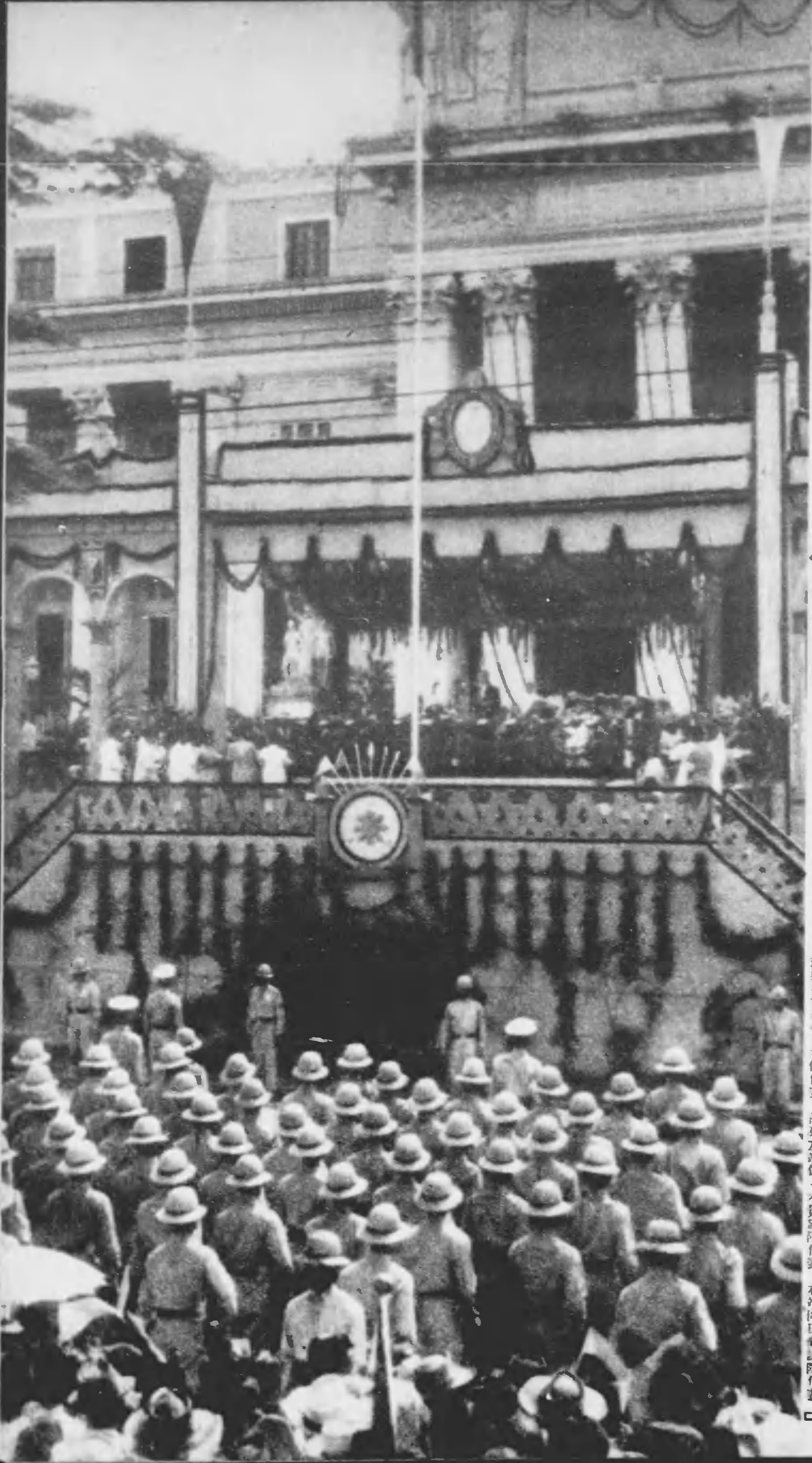
昭和十八年十月十四日、『フィリピン』國は獨立を宣言し、大東亞共榮圈の一員たる完全な獨立國として光榮の第一歩を踏みだした

即ちこの日、朝、わが比島派遣陸軍最高指揮官黒田重德中將は、バルガス行政府長官以下を招致し、同日を以てほゞ二年に亘る軍政を撤廢する旨を通達、これによつてわが軍政を離れたフィリピンは、直ちに新獨立國を建設すべく、午前九時四十五分よりマニラ市國會議事堂前廣場で、その歷史的獨立式典を擧行したのである

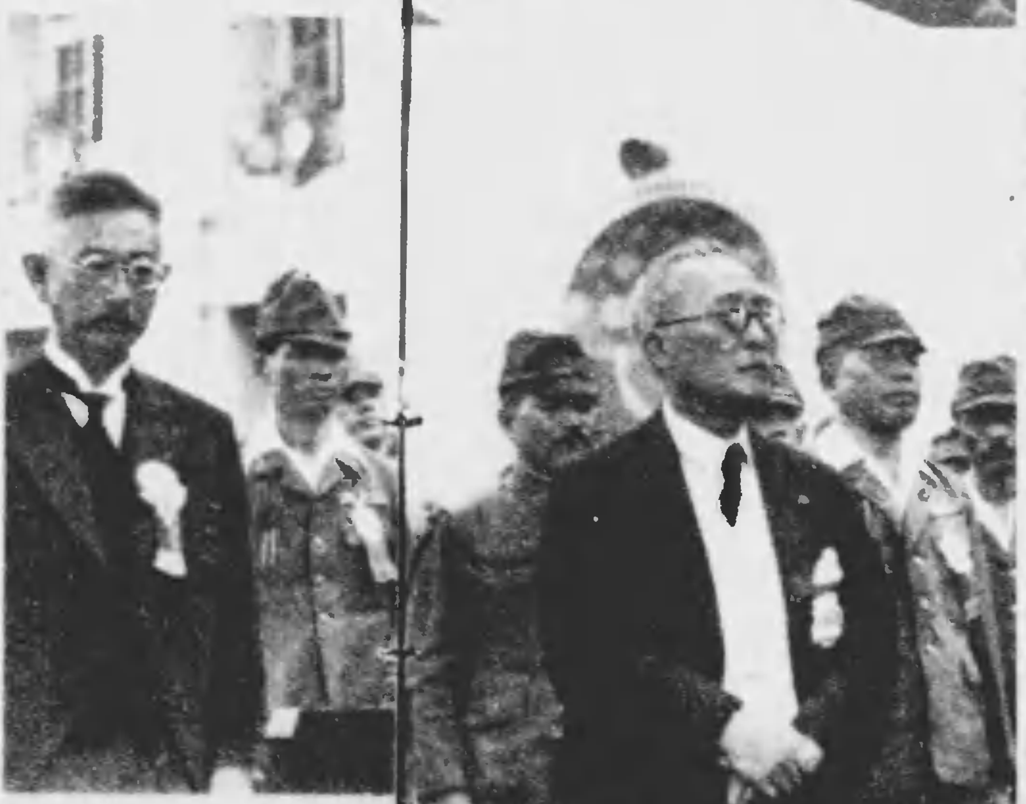
思へば、スペインの領有以來約四百年、スペインに次ぐアメリカの桎梏下に、千八百万民衆が『比島人の比島建設』を目指して戰つて來た努力は、萬邦をしてその所を得しめるわが肇國の大理想の顯現によつて酬いられ遂に强力な新國家は創成を見、勇躍帝國と共に大東亞の建設に、世界新秩序の確立に、相携へて邁進することになつたのである。かくて新比島は、かつての民族的英雄ホセ・リサールが念願した『南海の眞珠』として光彩を全世界に輝かし得る日を約束されるに至つたのである

⇨ラウレル大統領晴れの就任演説

⇦黒田最高指揮官軍政の撤廢を通達。寫眞は黒田最高指揮官と握手を交はすラウレル大統領



⇦壯嚴な獨立式典式場



式典に參列の日本側代表、前列左端佐々木貴族院代表、右端岡田衆議院代表⇨

⇦獨立祝賀式に參列の要人夫人たち　右からラウレル夫人、バルガス夫人、アキノ夫人

撮影　同盟通信社

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

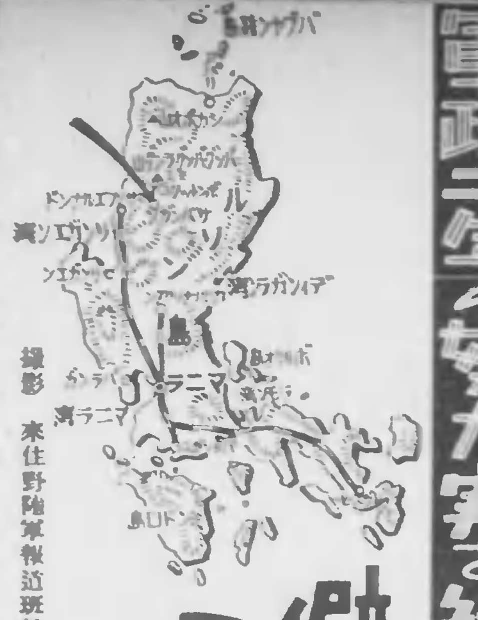
軍政二年の努力実を結び

僻村の子らにもこの頼母しさ

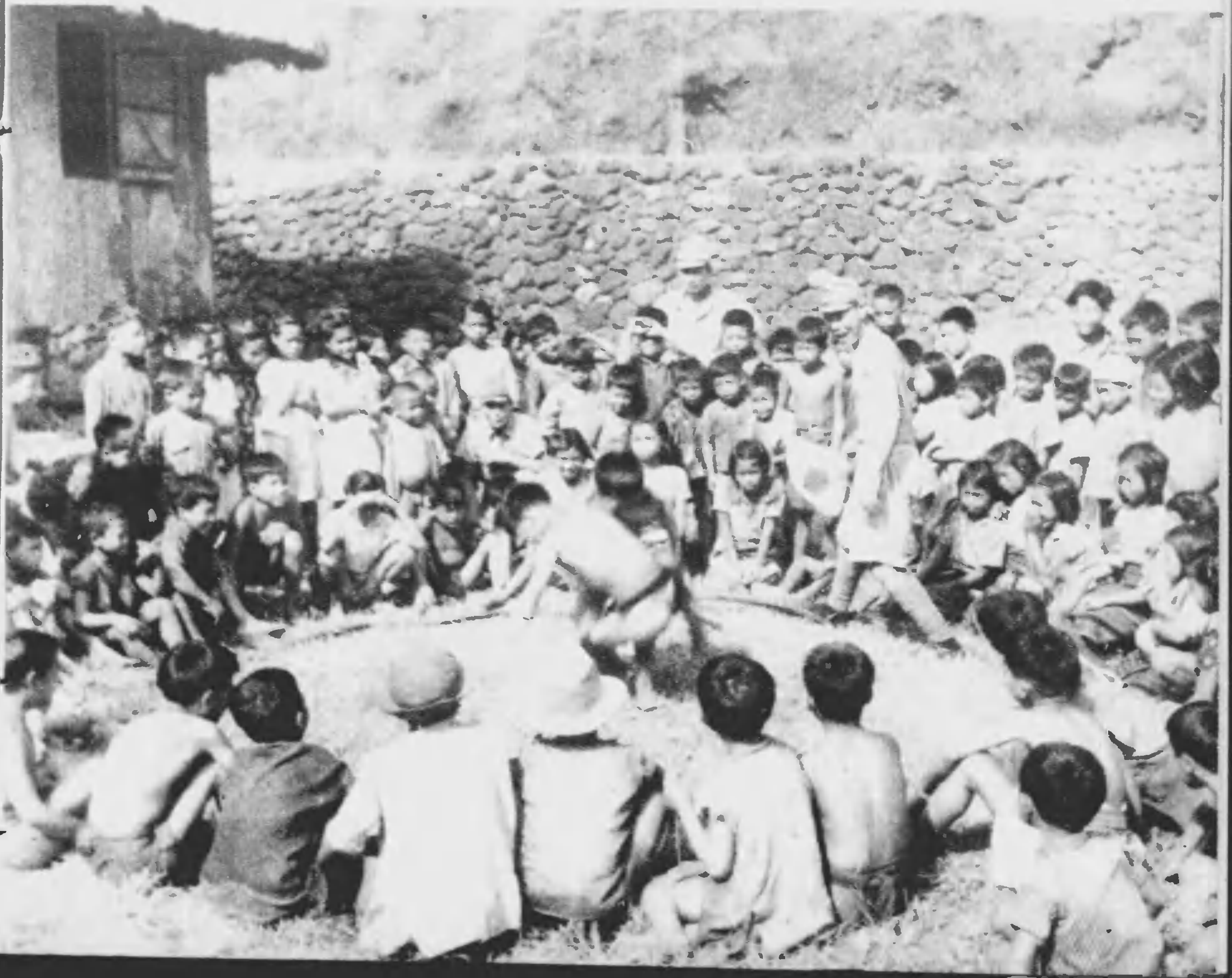
比島サバンガン

撮影　來住野陸軍報道班員

⇨元氣一杯なラジオ體操。だが、あまり良く揃はないのに先生も一苦勞



男の子たちは角力が大好きだ。授業の合間を見てはハッケヨイヨイ、ノコッタ⇩



比島再建につくされた軍政二ケ年の努力は、文化教育の部門にも立派に實を結んで、比島全島にわたつて諸學校の續々に再開されたもの公私立小學校約一千四百、在學兒童數は五十萬に達してゐる。この他、中等學校、専門學校、大學などについても、必要なものについては逐次再開がおこなはれてをり、獨立と共に再出發を期した比島教育の健全な發達は十分期待される。日本語の普及も比島人の語學に達者な素質と比島人一般に學習熱が高まつたことと相俟つて、マニラなどの都會地ばかりでなく、地方でも目覺しい進捗をみせてゐる。

× × ×

このサバンガンは山岳地方の一僻村で、昔は首狩人種といはれたイゴロト族の住む地方であるが、イゴロトのヨイコたちが今の兵長先生を中心に熱心に日本語を學ぶ頼もしい姿は、共榮圏の一員として起ち上つた比島の將來を物語つて餘りある。

⇧日本語の上達は素晴しく、餘り上手なので今日では内地の兵隊さんも驚かされることがあるといふ

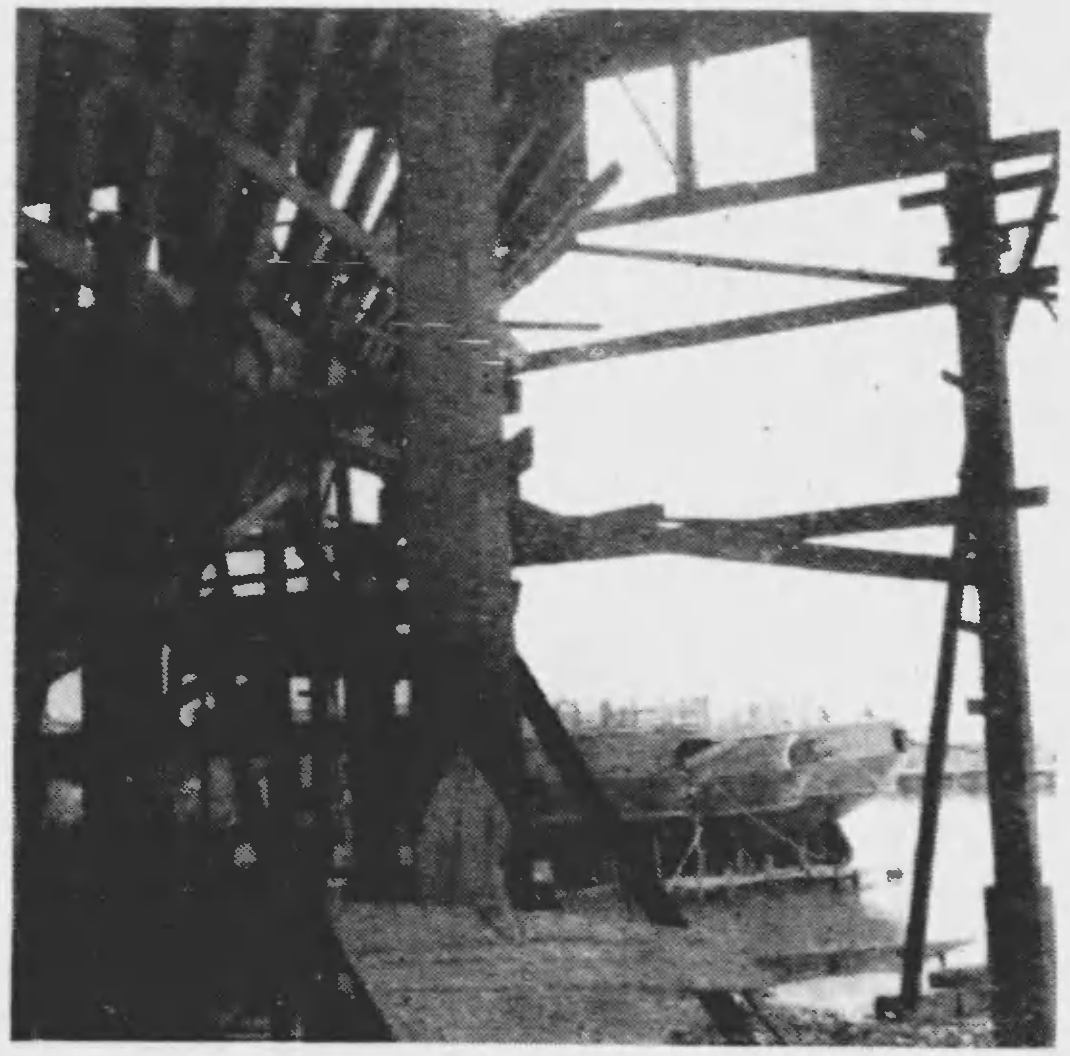
⇐街角に貼られた日本語ポスターに見入る少女たち

⇦おじぎも上手になつて兵隊さんに明快に「サヨナラ」の挨拶

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

⇧アメリカは比島に棉花の栽培を[illegible]

七千餘の島嶼から成る[illegible]マニラと各地方を連絡する[illegible]比島[illegible]船[illegible]⇩



軍政二年の努力實を結ぶ

比島經濟も自主獨立へ

アメリカの支配下にあつた比島は、絶えず鼻先につきつけられた『獨立』といふ人參を追ひ求めて遂に與へられなかつた馬のやうなものであつた。一九一六年ジョーンズ法によつて與へられた自治も、經濟的にはます〳〵アメリカへの依存を高めるといふ憎むべき對策の好餌に過ぎなかつた

アメリカは比島に學校を與へたといふ。だが、學校は比島人に極めて高價な消費生活を教へ、アメリカの消費物資を出來るだけ多く買込む外交員の役割をしたに過ぎない。またアメリカが比島に殘した道路も、如何なる山間僻地にもそれらの物資を賣込まうとする輸送路に過ぎなかつた。かゝる巧妙な商業政策によつて骨拔きにされた比島産業は全く自主性を失ひ、比島に流れ込むアメリカの莫大な消費物資の代償として、アメリカが必要とする物資のみを生産させられてきたのである

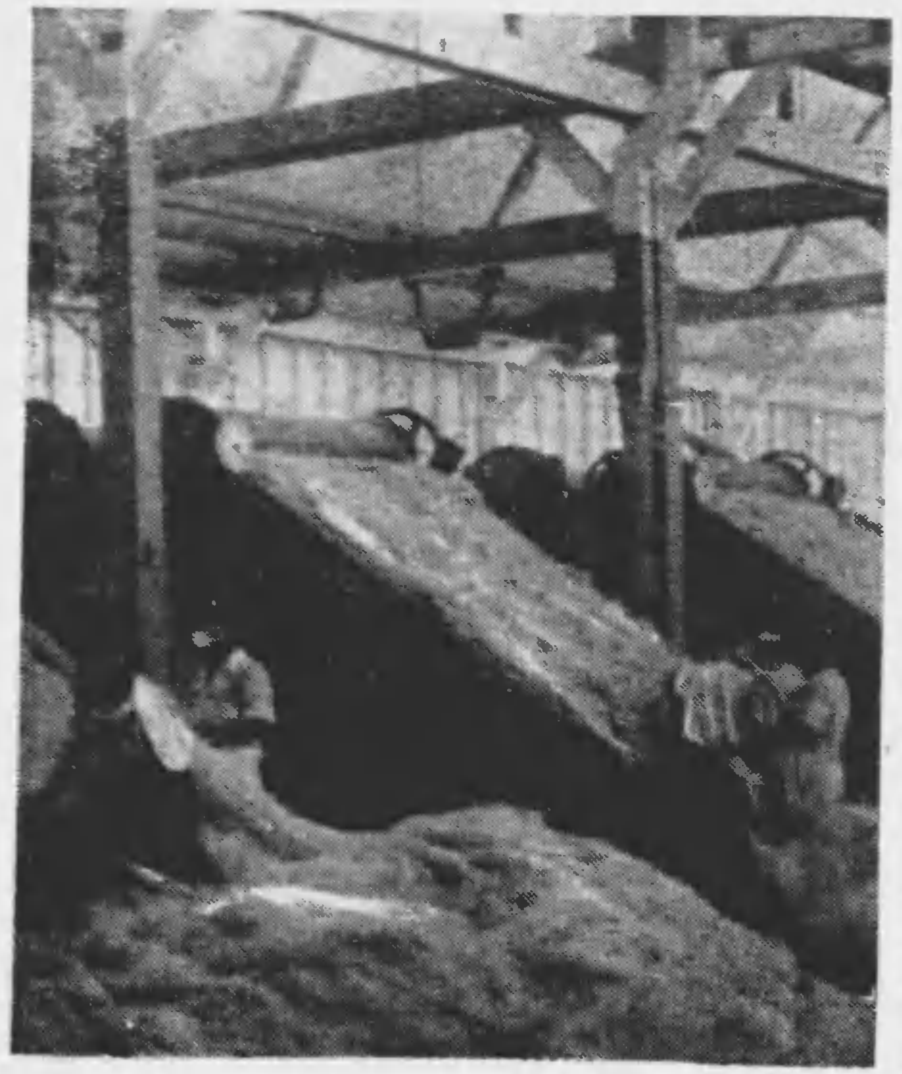
が、今や獨立とともに、比島は精神的に東洋への復歸を完成すると共に、經濟的にも對米依存は昔の夢、大東亞共榮圈の協力な一環として堂々自主自活の道を邁進することになつたのである

撮影　同盟通信社

現在では既に自動車の現地組立まで行はれてゐる。自動車を賣り込むために道路を造つたアメリカには到底想像も及ばないところであらう⇩

⇧アメリカは市場としての比島を確保するため[illegible]

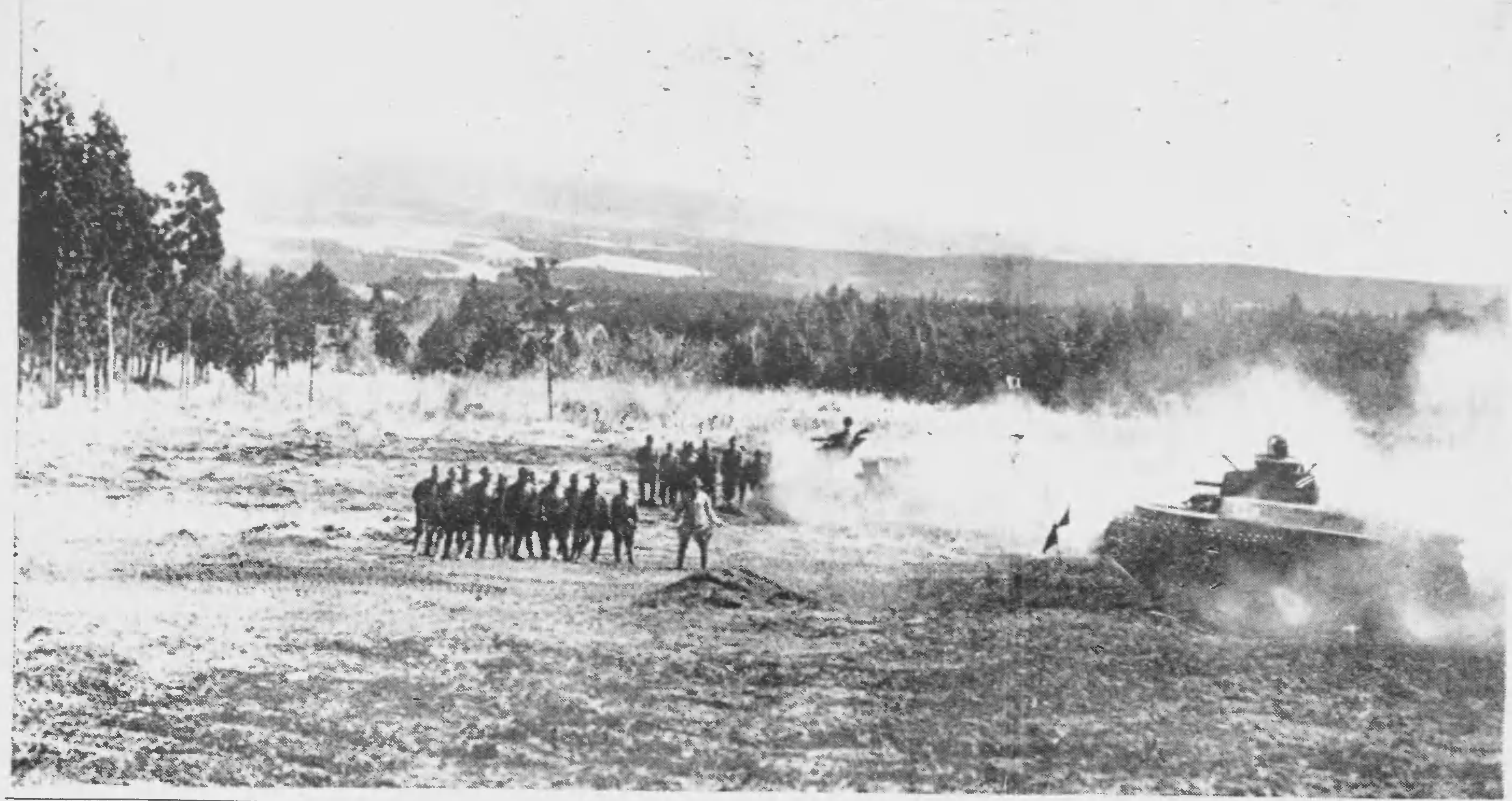
マニラ[illegible]⇩



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

陸軍少年戦車兵

映畫「富士に誓ふ」より



[illegible]いて内務班生活をときこした少年兵たちのこの若々しい顔、燃ゆる顔　―右下―

廣漠たる裾野の原野に砂塵を巻いての操縦訓練 ⇩

眼前に大きく、せまる富士の霊峰、渺々萬里を碎く太平洋―この雄大な自然を背景にした静岡縣富士郡上井出村に陸軍少年戦車兵學校がある。少年戦車兵たちは[illegible]な、この霊峰を仰いでは忠誠を誓ひ、太平洋を望んでは闘魂を燃やしつゝ、廣い裾野の草野を縦横に疾驅して猛訓練をつんでゐる

この學校での在學年數は二ケ年、この間に學課と訓練を十分にうけ、何物をもふみにじつて、つねに地上部隊の最先頭に日の丸の旗を翻へして猛進する戦車手としての資格を體得して卒業する。卒業後は兵長として約一ケ年隊附すると、こゝに戦車隊下士官に任官するのである

木の香もすがゝしい新校舎は、あらゆる設備をとゝのへて少年諸君の入校を待つてゐる

殊に諸君の親代りとなり、兄貴分となつて、どんな面倒をもみてくれる教官や二年生たちは、元氣潑剌たる諸君の入校を心から待つてゐる

なほ陸軍少年戦車兵學校への**志願者資格**は大正十五年四月二日から昭和五年四月一日までの間に生れたもの。願書の**締切は本年十二月末日**まで。志願者は直接、學校または近くの聯隊區司令部、教育總監部、機甲本部に郵便切手を封入して申込めば、志願票と志願者心得を郵送してもらへる。また本年からは特に志願者の便をはかつて全國の市町村役場や國民學校からもらふこともできる

國民映畫

富士に誓ふ

文部省推薦
陸軍機甲本部後援
日本映画社作品

本映畫は少年飛行兵とならんで、戦爭に重要な役割を演ずる少年戦車兵の育成過程を描いたものである。富士の麓で戦車兵として日夜猛訓練にいそしむ少年戦車兵たちの表情には、皇國必勝の信念に燃える逞しい攻撃精神が溢れてゐる

大東亞戦爭日誌

―九月―

九日　●帝國海軍艦艇ならびに航空部隊は日本近海その他海面において七、八の兩月に亘り敵潜水艦十三隻を撃沈せり

●（一）帝國陸海軍は九月九日イタリア、バドリオ政府の單獨降伏に伴ひ、直ちに東亞各地に存在せる伊國軍隊の武装解除および艦船の抑留を實施せり。（二）占領地内における伊國權益は帝國陸海軍においてこれを接收し、その他の地域にありては各盟邦の措置に協力せり。なほ占領地内の非戦闘員に對しては監視保護を加へつゝあり

十二日　●九月十二日朝敵戦爆連合機十八機北千島に來襲せり。我が陸海軍航空部隊および地上部隊はこれを邀撃し、その九機（うち不確實二）を撃墜、三機を大破せしめたり。就中我が方の一戦闘機は敵機に體當りを敢行しこれを撃墜せり。我が方輸送船二隻損傷せるほか地上の損害は輕微なり

●帝國海軍航空部隊は九月十二日モロベ灣所在の敵艦船を攻撃し、その大部を潰滅せり。戦果左の如し

大型輸送船	一隻	大破炎上
中型輸送船	四隻	大破炎上
ジャンク	一隻	撃沈
海上トラック	二隻	撃破炎上
[illegible]	一隻	撃破

右攻撃における我が方の損害、自爆一機

十四日　●ソロモン方面その後の戦況は依然熾烈にして、わが陸海軍守備隊はニュージョージア島およびコロンバンガラ島の中間島嶼地區にて有力なる敵軍と激戦を交へ、反復大打撃を與へると共に、所在のわが海軍航空部隊は地上部隊の奮闘と相俟ち、有力なる航空兵力の破摧、増援の阻止、補給の妨害等に連日活躍中なり。この間わが地上部隊並びに海軍航空部隊のあげたる主なる戦果左の如し

（一）アルンデル島のわが陸海軍守備隊は九月十三日約六百の敵を潰走せしめ、遺棄死體九十五、敵兵器多數を鹵獲せり

（二）ブインの我が海軍航空部隊は九月十四日來襲せる敵飛行機延二百四十機以上を邀撃し、地上砲火と相俟ち、その六十機を撃墜せり。我が方の損害、自爆未歸還を合はせ五機なり

十九日　●九月十六日未明より同十九日早朝にかけ、敵飛行機延百數十機ギルバート諸島タラワ島、マキン島およびナウル島に來襲せしが、所在部隊はその二十二機を撃墜せり。我が方地上施設並びに人員に多少の損害あり

二十日　●支那方面帝國陸軍航空部隊は連日在支敵航空基地、船舶、軍事施設等を攻撃中にして、九月十日より同二十日までの状況次ぎの如し

（一）九月十一、十二日および十九日の[illegible]次に亘り建陽、同十八日南雄、同十二日昆明および南寧の各飛行場を攻撃し、滑走路および附屬施設を爆碎せるほか、昆明においては、敵戦闘機と交戦、その十八機（うち不確實八）を撃墜すると共に、地上にありし大型機二十四機以上を爆破せり

（二）九月十七日[illegible]西北八十キロ[illegible]、同十九日梧州附近の船舶を攻撃し、[illegible]および小舟艇多數を撃破せり

（三）九月十八日[illegible]東北方[illegible]キロ乳源、同二十日[illegible]東西方百十キロ浮梁附近各軍事施設を爆撃し、浮梁においては五箇所より炎上せしめたり

（四）我が方の損害、昆明攻撃において六機自爆せり

二十五日　●（一）敵の一兵團は九月二十二日以來ニューギニア島フィンシュハーヘン北方地區に上陸せり。同地附近の我が陸海軍部隊はこれを邀撃し、目下激戦展開中なり

（二）我が陸海軍航空部隊は同方面の敵輸送艦船およびフィンシュハーヘン北方地區に上陸中の敵を攻撃中にして、九月二十二日より同二十三日までの戦果次ぎの如し

イ、敵に與へたる損害　巡洋艦二隻、驅逐艦一隻、大型輸送船一隻撃沈、巡洋艦一隻、小型輸送船二隻炎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

☆兵隊さんの雜記帳から☆

詩

トッケーの詩

ビルマ派遣　伊藤東兵衛

トッケー、トッケー
トッケーは南方の大蜥蜴
トッケー、トッケーとのやうに
鳴く……

自分達がバンコックに上陸をした第
一夜
こいつのけたゝましい鳴き聲に惱
かされた
續いて泰緬國境の峻嶮ベッタ山を
越えるとき
深夜のジャングルのこゝかしこで
強行軍に疲れ果てた耳にうるさい
ほど
そのかん高い鳴き聲がひゞいてや
まなかつたことを思ひ出す
――お、今ではもうすつかりお馴
染みて
トッケーの鳴かぬ夜は兵隊達が寂
しがる
ク、ク、トッケー、トッケー
『ほら、やり出したぞ』
耳を傾ける兵隊の顔には自づと笑
ひが浮ぶ
見たところ、恰好はまことに怜悧
しかし人には害を及ぼさぬとか
この頃では却つて、こいつの愛嬌も
のにさへ思はれる
……遠くビルマへの征旅すでに一
年半
眠れぬまゝの兵舎の夜更け
故郷への遥かなる想ひに[illegible]
とき
トッケー、トッケーと
トッケーの鳴く静かなやさしい[illegible]が
のやうに聞く

軍歌「愛馬と共に」

―アキャブ戰線にて―

ビルマ派遣　三浦　弘

（一）

青毛よ御苦労　喰むがよい
昨日も今日も　雨ばかり
怨んでくれるな　この難行
愛馬と共に　進撃だ

（二）

今日の滿月　雲もない
敵の『トンボ』が　うるさかろ
菩提樹の蔭で　偽装して
愛馬と共に　急追だ

（三）

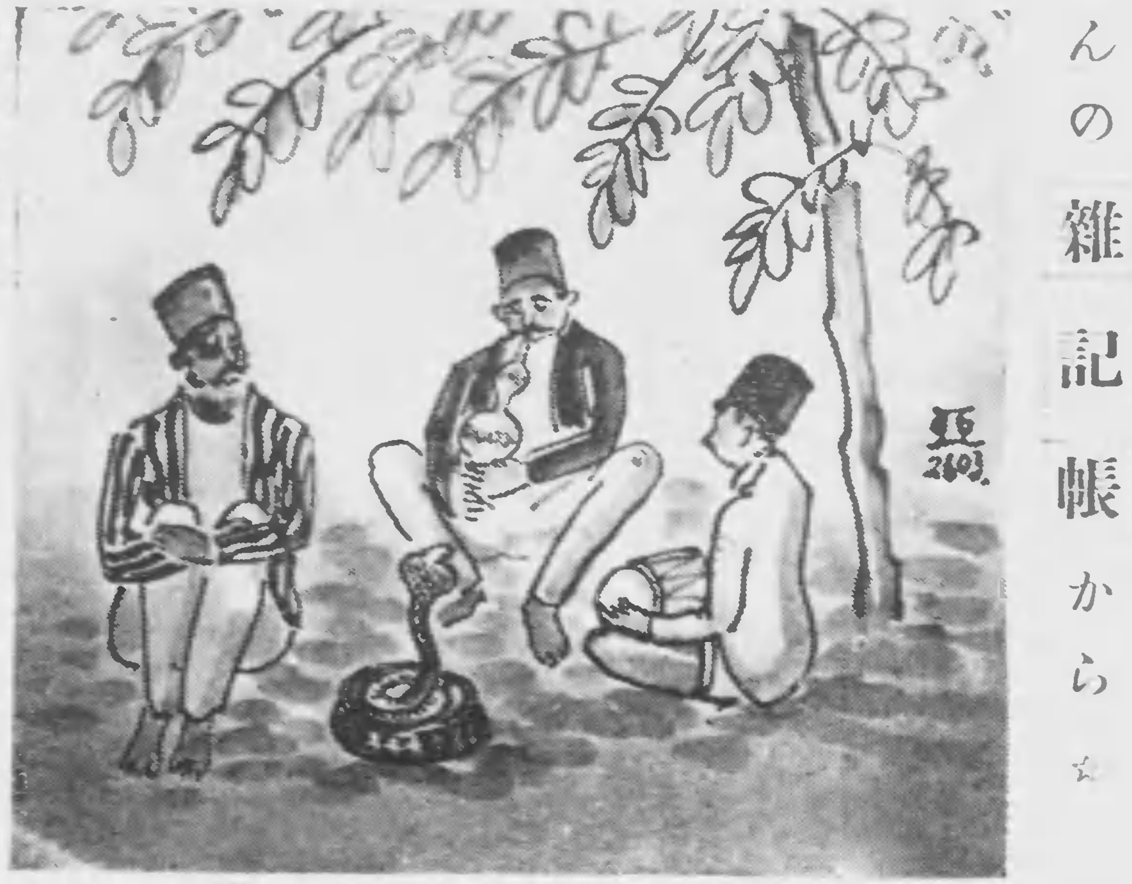
南十字の　星映ゆ
極なき[illegible]　泳ぎ行く
しつかり頼むぞ　名調子
愛馬と共に　挺進だ

（四）

轟き燦めく　十字の火
敵は近いぞ　この夜襲
青毛よ急げ　朝[illegible]來た
愛馬と共に　白襷

（五）

薔薇色の空　晴れわたり
今ぞ軍旗の　入城だ
蹄の音も　高らかに
愛馬と共に　勝鬨だ



コブラとあそぶ・　鈴木空夫 繪

陣中人形

ビルマ派遣　遠藤武次郎

一　昨日もらつた慰問の袋
出てきた可愛い[illegible]人形
[illegible]
送り主の人偲ばれる

二　可愛い人形手もとに寄せりゃ
兵隊さんとやさしげに
一[illegible]
俺の戰友かはいい人形

風　景　中支派遣　井澤才典 繪

七、巡洋艦二隻を近弾により撃破、飛行機十二機（うち不確實八）撃墜、十餘地點を爆撃し九箇所炎上

ロ、我が方の損害　自爆および未歸還十六機

十　月

一日　●一、ソロモン方面その後の戰況は依然熾烈にして

（一）コロンバンガラ島の帝國陸海軍守備部隊は連日百機におよぶ敵機空爆下において、アルンデル島およびウエスト[illegible]島に進出せる有力なる敵軍と交戰中なり（二）ベララベラ島の帝國陸海軍守備部隊は九月三日以來、同島北部地區において有力なる敵軍と交戰し、九月二十一日までの戰鬪において敵兵七百二十を殪し、多數の鹵獲品を得、今なほ激戰中なり

二、所在帝國海軍航空部隊および海上部隊は右陸戰と相俟ち、敵航空兵力の破摧、増援の阻止、撃攘等に任じつゝあり

（一）九月中、敵に與へたる損害

飛行機　撃墜二四〇機　撃破一〇機
艦艇　撃沈（魚雷艇　六隻／海上トラック　一隻）
　　　撃破　魚雷艇　四隻
輸送船　撃沈小型二隻　撃破大型二隻

（二）同期間における我が方の損害

飛行機　自爆、未歸還　四〇機
艦艇　大破　上陸用舟艇　一隻

四日　●帝國海軍艦艇並びに陸海軍航空部隊は日本近海その他作戰海面において九月中、敵潜水艦六隻を撃沈せり

七日　●十月六、七日有力なる敵部隊大鳥島に來襲し、砲撃および銃撃を行へり。同方面の帝國陸海軍部隊はこれと交戰の後撃退せり

九日　●ソロモン方面その後の戰況は依然熾烈にして

一、コロンバンガラ島並びにベララベラ島の帝國陸海軍守備部隊は所在の敵に多大の損害を與へたる後、後方基地に轉進せり。右轉進は殆んど敵の妨害を受くることなく順調に行はれたり

二、所在帝國海軍艦艇並びに航空部隊はこの間敵艦艇並びに航空機と交戰し

（一）航空部隊は十月一日ベララベラ島ビロア附近において敵驅逐艦一隻、中型輸送船一隻、小型輸送船一隻を撃沈、中型輸送船一隻を撃破、敵飛行機十機を撃墜、一機を撃破せり。右戰鬪において我が方自爆未歸還計八機を出せり

（二）水雷戰隊は十月六日ベララベラ島西方海面において敵巡洋艦、驅逐艦各三隻と交戰し、巡洋艦一隻、驅逐艦三隻を撃沈せり。右戰鬪において我が方驅逐艦一隻を失へり

十二日　●十月十二日午前、敵機約二百ニューブリテン島ラバウルに來襲せるも、我が海軍航空部隊および陸海軍地上部隊はこれを反撃撃退せり、本戰鬪において

（一）敵に與へたる損害

空戰により　撃墜　八機
　　　　　　撃破　四機
地上砲火により　撃墜　五機

（二）我が方の損害

飛行機　自爆及び炎上　十五機
船舶　沈沒　一隻

俳句

中支派遣　安倍　登

秋草の中に廟あり小休止
秋草の流れ寄る瀬に馬洗ふ
敵を追ひ木犀の道を急進す
稲穂飛び泥田の陰にキイ叩く
いなびかり一瞬に見ゆ桑畑
初秋の風に逢ひたり討匪行
日盛りに母の遺愛の守護下す
日盛りて望哨の旗ゆれず

比島派遣　勅使川原香堂

花椰子や門の表札日本文字
雨季深き晝を灯せるホテルかな
跣く貧しき子らに合歓散りぬ
椰子の實を浮べて雨季の水迅し
檳榔樹つめたく釋迦頭影沈めり

（註）釋迦頭は南方の果實の一種、タガログ語でアテスといふ

ビルマ派遣　西川比呂志

國建ちてビルマ國原緑萠ゆ
國生みの光輝くパゴダ哉
水浴や紅き[illegible]けり
雨誘ふ蛙の聲や合歓の花

ビルマ派遣　秋野　掌作

黄砂熱し撃ちてしやまむ銃熱く
紅生姜[illegible]しも雲の夏闌けて
銃おきて塩せんざいをすゝる汗

満洲派遣　古川　秀男

城壁のこはれし街や草枯るゝ
娘々廟地獄極樂野は枯るゝ

ビルマ派遣　加藤　信一

野火遠き月下の原を動哨す
ドリアンになれて征旅の日誌かく

海南島派遣　須合　忠義

菊を手に遺兒は神々しく家を指す
戰盲は心静かに虫を聞く

満洲派遣　和田　豊積

螢一つながれて闇のひそかなる
黄なる月貨車ひつそりと遠のきぬ

満洲派遣　佐々木文藏

立哨や銃剣に咲く雪の花

北支派遣　中西　佐一

月白く古塔に映えて夜更けぬ

北支派遣　沖本　治重

防空壕敵機來ずして水溜り

スマトラ派遣　原田　耕文

戰友生きて心にしみぬ虫の聲

川柳

北支派遣　和田　豊積

髭剃つてこれでいつでも死ねる顔
隊長の背中の汗をみつゝ征く
小休止煙草の煙よ雲になれ

短歌

中支派遣　安倍　登

渡河用意號令聞きてふと仰ぐ夜空にしるき流星のあり
月細く傾きゆきて我なほも健在なりき突撃を待つ
ふるさとの初夏に逢ひたる友はいま南の島に征きて還らず

ビルマ派遣　加藤　信一

梅雨晴れの池に夜衣をすゝぎつゝ欄間を見れば[illegible]
指揮壕の梢にさしたるジャスミンは[illegible]のまゝに立枯れぬはや

ビルマ派遣　足立　秀雄

渓流に海老を刺すてふ苦力のあなどりがたき技をみたりき
水増して濁流逆巻き淵に立ち今日も糸たれ小さきを釣る

北支派遣　望月　浩明

バリカンをとりつ思へば虎なりと戯けて笑ひしその戰友もなし
わが心しばしも知りて慕ふ華人とつ國人ともはや思へず

ジャワ派遣　浅加　浅丸

故郷の櫻しのべと我が妻の便りの中より出づる押し花
とりどりの色を競へる霧島の亂れ咲くさま目に浮ぶごと
銀線の雨にぬれたる岸壁に汽笛の音の太くこだます

満洲派遣　大塚　光一

はるばると友を送りし菊の花おしいただきて友情に泣く
泳ぎして魚の股によつて來る興安嶺に清き流れあり

北支派遣　徳永　八郎

武藏野の畑作の道に闘つ母佇み給へり恐懼くも

中支派遣　足立登美男

朝日さす中山陵の參道を粛々と參る和平軍の一隊

北支派遣　小島　忠明

生も死も一片の雲なり己が身は發つ日既に無しと思へば

比島派遣　塚本　深喜

嶮々たりアリプナン峠　鐵砲聲連山に斷續　渓谷鳴る

ジャングル中に突撃命令を待つわが陸戰隊　撮影　小澤海軍報道特派員

日毎に鳥海山を仰いではは増産を誓つてきた勞苦の稔りも取入れられた。前線にはされた八紘勇躍の意さ。一望の刈田のはてに鳥海の山も今日は日本晴れだ

收穫のよろこびと感謝を直ちに今次の食糧戰へ打ちこんで出動した勤勞奉仕隊は、昨日までの刈田に今日は早くも麥の播きつけだ。寒地の水田に二毛作を實踐するお百姓さんの決意と自信。これこそ日本農業技術の勝利でもある

新穀への感謝を新たな増産へ

山形縣大宮村

コ 庄内米の誇りをかけてどし／＼と共立倉庫に運びこまれる供出米。戰ふ日本の戰力は[illegible]

ロ 大地の恩へに感謝をこめて[illegible]戰ふ[illegible]

十一月の常會

新穀に感謝しませう

「稔りの秋」といへば、何となく心豐かな響きをもつて、われ／＼に[illegible]の平和な黄金の波打つ田園風景を思ひ描かせてくれます

遠くの古へ、天照大神が「[illegible]萬民の生活に[illegible]べきものである」と仰せられて、御饌津神の獻つた稲種を、狹田、長田に御栽培になつてこのかた、[illegible]民に生を享けた萬民の日々の食糧として、この賜はつた稲子を、四時共に厚い神々の御守護と、お百姓さん達の辛苦と汗の結晶として生育してきたものです。一粒の米にも無限の神恩と辛苦、農家の人人の辛苦がひそんでゐることを思ひ、心からの感謝を捧げようではありませんか。ことに、この決戰下の農村では、人手、肥料等の不足の上に、今年はあまり順調でなかつた天候に打ち克つて、戰ふ食糧を確保してくれた努力と、樂觀を許さない食糧事情を思ひ、來年に一粒の米も[illegible]たいといふ氣持になつて頂きたいと思ひます

そこで、農業に從事してゐる方々は、來年度は一粒の外米も入つてこないのですから、必ず國内の食糧は賄つてみせるぞ、といふ覺悟で、感謝の念を直ちに次きの増産戰に打ちこんで、土地改良目標百万町歩といふ増産對策の遂行に邁進して下さい。冬は、暗渠排水等は急務です。收穫のあとには、時期をたがへず麥を播けるやう準備をなさると必勝増産を期して下さい

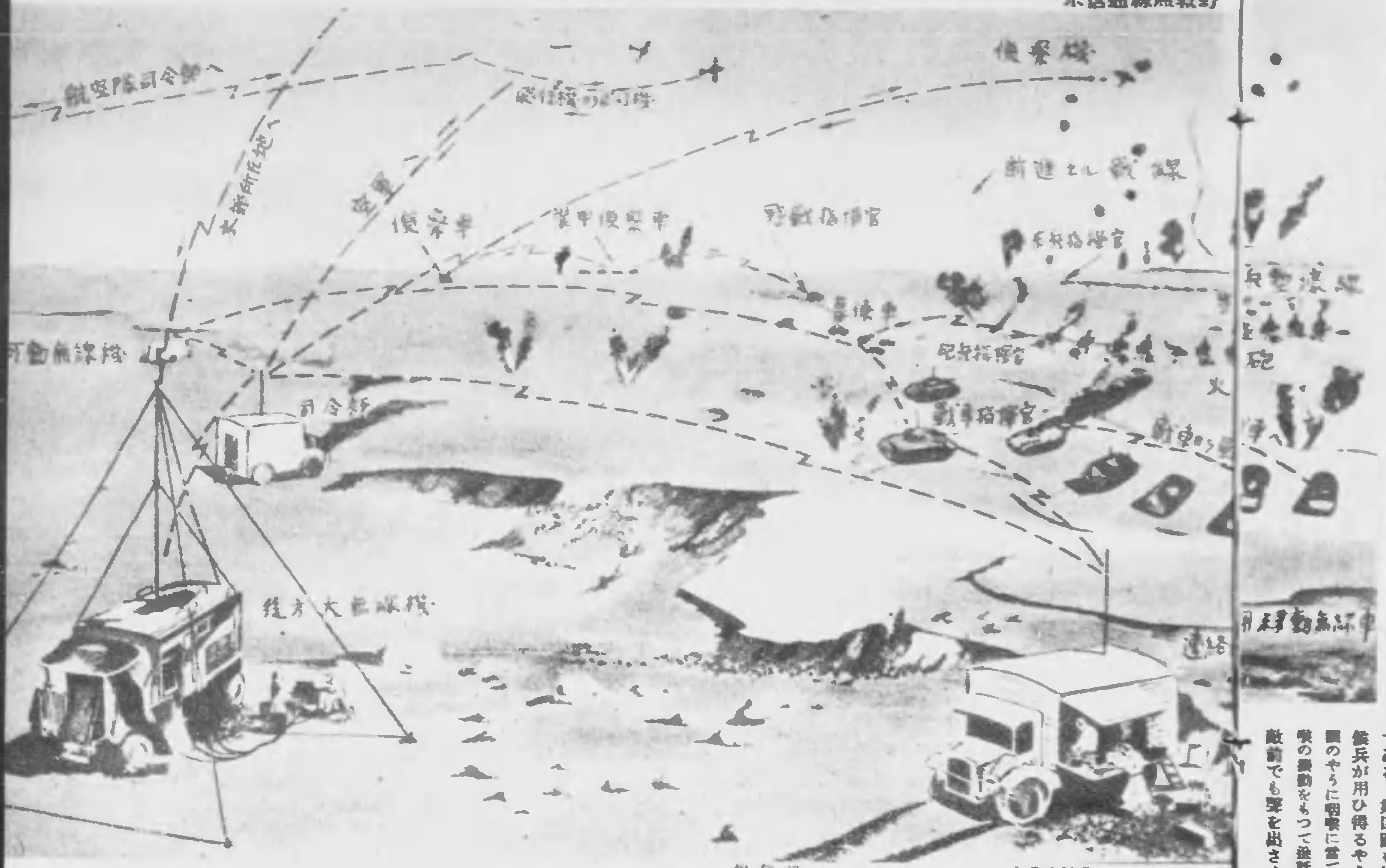
ニッケルや銅等の補助貨は殘らず引換へませう

今月の常會では、この他に白銅貨、銅貨、ニッケル貨、銀貨等の古い補助貨を一枚のこらず決戰の武器にするために、隣組、經濟會、町内會等で取纏めて引換へることを必ず實行しませう。飛行機にも、軍艦にも、戰車にも、どうしても必要なのです。財布の底に一枚でもあつたら殘らず決戰場へ送りませう

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

新兵器の科學 4

電氣通信兵器


野戰無線通信系

第二圖

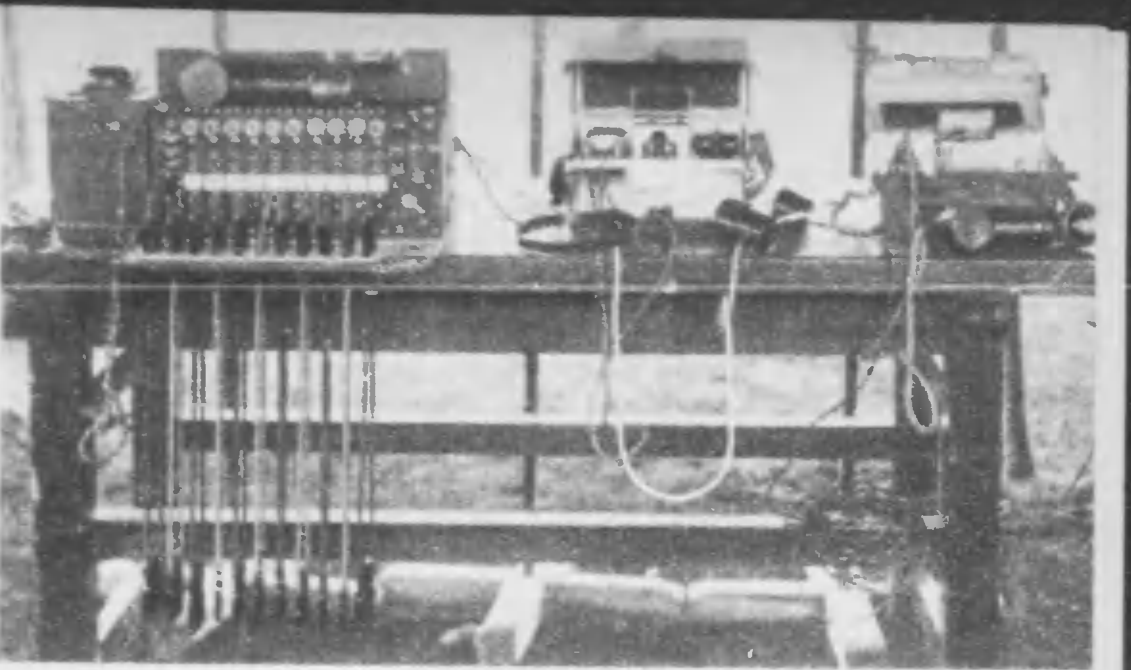
航空隊司令部へ
偵察機
砲兵觀測飛行機
空軍
前進せし戦線
偵察車
装甲偵察車
野戰指揮官
歩兵指揮官
傳令車
砲兵指揮官
戰車指揮官
前進する戰車
可動無線機
司令部
後方大無線機
連絡
砲
火

電氣と兵器

近代科學兵器には電氣が利用されてゐないものは無いといつてよいほど、電氣は戰爭に重要なものである。從つて、電氣を使つた兵器すべてを説明することは到底不可能なので、そのうちで通信兵器の一部と、將來の新兵器の一端とをご紹介しよう

第三圖

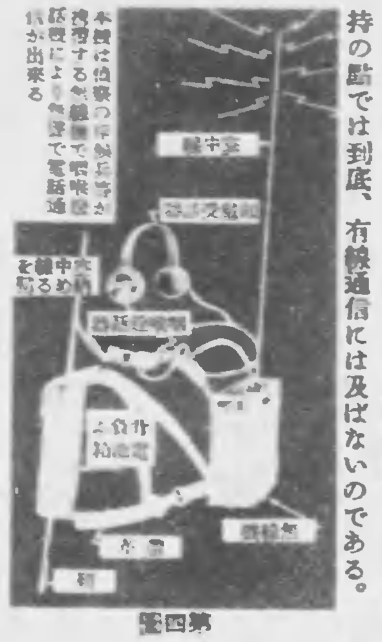
[illegible]


第一圖

通信兵器

電氣通信兵器は大別して、有線、無線及び特殊通信の三つに分けることができる。これら通信兵器の原理は一般の通信機と變つたところはないが、軍用に用ひるため、その構造や形狀をそれ〳〵の用途に適當したやうに改良されてゐるのである。第一圖は今次戰において鹵獲した英軍の有線通信器材で、左端は十回線用交換機、右二つは野戰で用ひる電話機である。有線通信の生命は線路であつて、その建設のための材料や人馬、車輛等、戰時においては莫大な需要に上るのである。又、近代戰の機械化に伴ひその架線法の迅速なことが戰鬪上、重要な要素になつてきたため、自動車を利用したり、また特殊の架線車等を採用してゐるのである

無線通信は架線の必要もなく、便利ではあるが、電波といふものは空間至るところ傳播するから、味方の通信内容を敵に盜聽される危險が多く、秘密保持の點では到底、有線通信には及ばないのである。


第四圖

本機は偵察の斥候兵等が携帶する無線機で咽喉送話器により無線で電話通信が出來る

第五圖

第六圖

指揮者用受話器
手持送話器
戰車用無線送信機及び受信機
紐

[illegible]
送話器を手から離して首にさすやうになつてゐる

然しながら數千キロの遠距離通信とか、海峽や山岳にはさまれて架線のできないやうな場所とか、或ひは急速に移動をせねばならぬやうな場合や、飛行機と地上の連絡、戰車間の通信等、どうしても無線によらねばならぬ場合が極めて多いのである。從つて無線通信を行ふ場合には、まづ第一に秘密保持の手段が講ぜられ、秘密無線機等も盛んに研究實施せられてゐるのである。第二圖は近代の戰場において、無線が如何に使用されるかを示す系統圖の一例であつて、小は一人の斥候兵が携帶し得る小型無線機から、大は通信車で運搬する大型無線機まで、それぞれの用途に應じて各種の無線機が裝備されてゐる

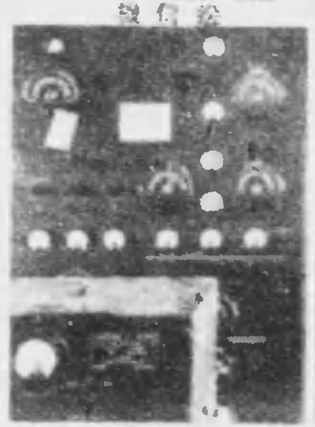
第三圖は英軍の使用してゐた一人用小型携帶無線機で、行進中でも簡單に送受信をできるやうになつてゐる。第四圖も携帶用無線機であるが、これは斥候兵が用ひ得るやうに、特に咽喉送話器（これは第五圖のやうに咽喉に當てて用ひるもので、聲を出さないで咽喉の振動をもつて送話できるものである）を備へてゐて、敵前でも聲を出さず隱密に通信できる裝置である。

第七圖　移動無線車

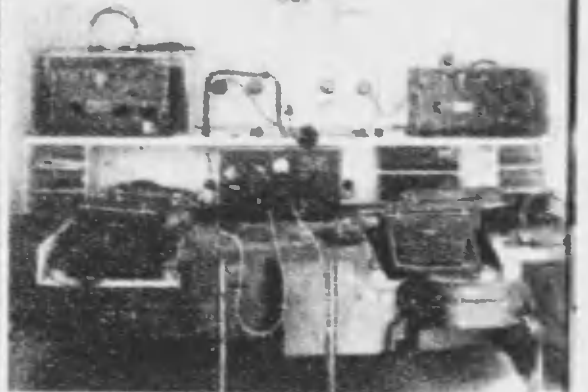
第八圖

又、戰車や砲塔内等は喧噪のため談話ができないから、このやうな場合にも咽喉送話器を使用してゐる。第六圖は戰車用の無線機で、外部との連絡に用ひるものである。車輛用の無線機は特に構造が堅牢で、耐震性のものでなければならない。第七圖は米軍の鹵獲品で、小型移動無線機が車輛に取付けられ、運轉中でも通信をすることが出來る。通信距離は車輛が停止してゐるときには無線電話で四十キロ位、車輛が移動してゐるときには三十キロ位で、その他の性能も優秀な器械である。次きに、第八圖乃至第十圖は（第二圖の後方大無線機に相當する）同じく米軍の鹵獲品で、對空地上局用として製作されたもので、送信車及び受信車の二車編成より成り、送信車で受信車を牽引するやうになつてをり、電源用發電機や配電盤等は送信車の内部に取付けられてゐる

送信機


第十圖

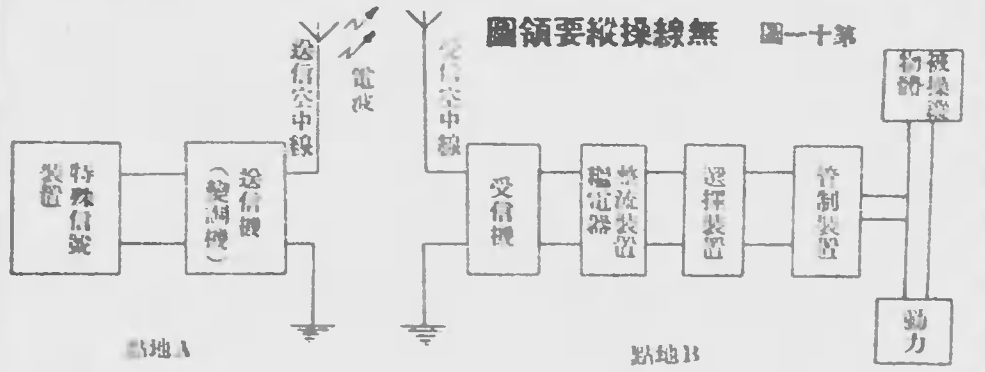
受信車内部


第九圖

無線操縱

無線操縱といふのは、第十一圖の如く、A地點の操縱者が、或る特殊信號裝置によつて特定の符號を送り出し、電線を仲介とせずに、これをB地點に傳達し、この信號に從つて目的とする大なる物體を操縱者の意志のまゝに運動せしめることである。信號を傳達する媒介としては、電波、光波、音波等が研究せられてきたが、このうち電波が最も重要なもので應用範圍も廣い。この際、被操縱物體を運動せしめる動力は、勿論それ自身の中に搭載されてゐなければならないのであつて、無線操縱としては、傳達された信號の種類を選擇增幅し、その出力で機械的繼電器を確實に動作せしめることが主要な研究問題となつてゐる。その選擇機構の方式には種々の方法が考案されてゐる。

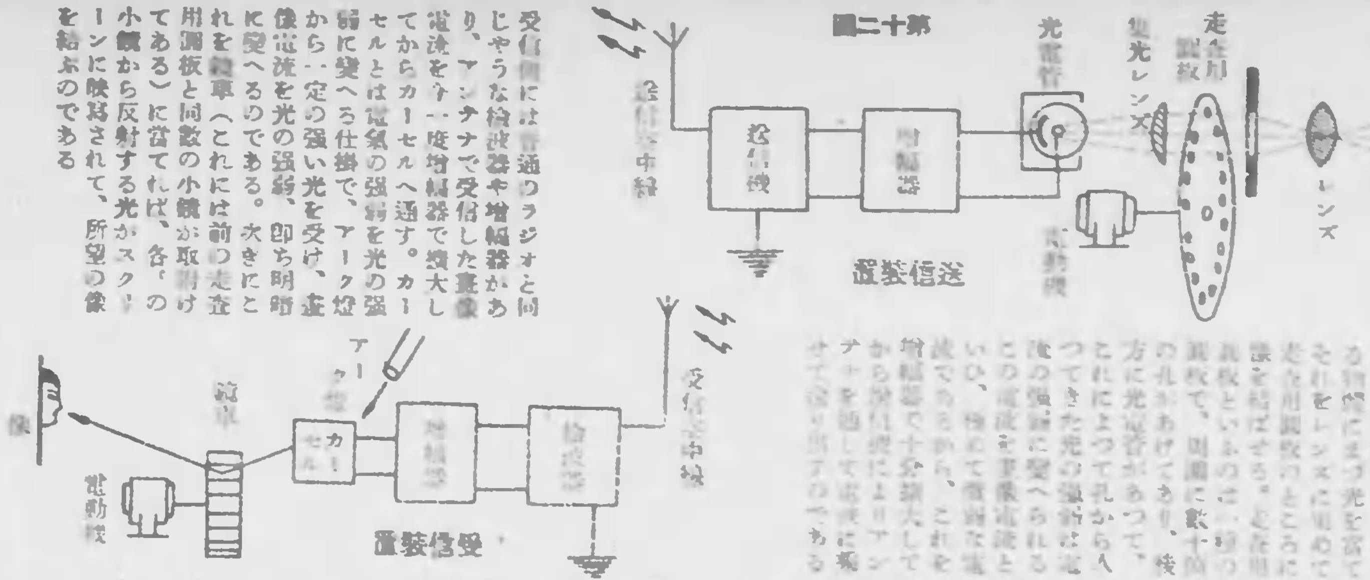
無線操縱は現在どの程度に用ひられてゐるだらうか。勿論、各國とも極秘にされてゐて、その内容を知ることはできないが、無線操縱による地雷の爆破や船艇の操縱は既に實用化されてゐるやうであり、飛行機に對しても、アメリカでは高射砲の訓練用の標的機として無線操縱式小型飛行機を使用してをり、將來、無人戰車や無人飛行機の操縱等、如何に發展してゆくかは甚だ興味ある問題であらう


第十一圖　無線操縱要領圖

電視（テレビジョン）

電視とは遠方の時々刻々に變化しつゝある光景、或ひは映像を電氣の作用により、時間の遲れなしに再生して觀察し得る方法をいふので、その原理は第十二圖に示す如きものであるが、要するに、現在ラジオで音聲や音樂等が無線で送られてゐるやうに、實際の景色を無線で遠く離れたところに送り、それを活動寫眞のやうに見得る裝置であると思へばよい。このやうな裝置は、既に大分以前から實施せられ、軍用にも用ひられようとしてゐるのである。即ち、この裝置の送信機を飛行機に乘せて敵狀偵察をやれば、直ちにその敵狀が後方の司令部に送られて、作戰の指導もできるし、また暗視裝置（ノクトビジョン）を併用すれば、夜闇や霧の上からでも使用できるわ

けである。或ひは飛行機の無線操縦が實戰に使はれるやうになれば、これに電視及び暗視装置を搭載して、晝夜の別なく敵陣や敵都市を空襲して無人飛行機を縦横に活躍せしめることもできるであらう



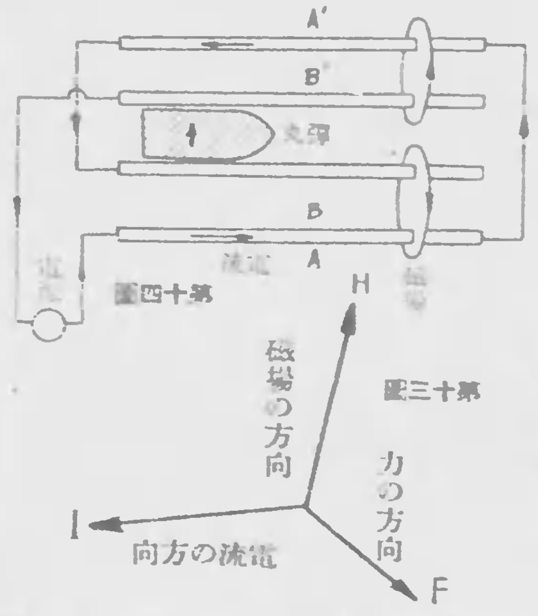
電視の原理

圖は電視装置の一例であつて、送影せんとする物體にまづ光を當てそれをレンズに集めて走査用圓板のところに像を結ばせる。走査用圓板といふのは、縁の圓板で、周圍に數十個の孔があけてあり、後方に光電管があつて、これによつて孔から入つてきた光の強弱は電流の強弱に變へられるこの電流を畫像電流といひ、極めて微弱な電流であるから、これを増幅器で十分擴大してから送信機によりアンテナを通して電波に乘せて送り出すのである

受信側には普通のラヂオと同じやうな檢波器や増幅器があり、アンテナで受信した畫像電流を一度増幅器で擴大してからカーセルへ通す。カーセルとは電氣の強弱を光の強弱に變へる仕掛で、アーク燈から一定の強い光を受け、畫像電流を光の強弱、即ち明暗に變へるのである。次ぎにこれを鏡車（これには前の走査用圓板と同數の小鏡が取附けてある）に當てれば、各〻の小鏡から反射する光がスクリーンに映寫されて、所望の像を結ぶのである

電氣砲

電氣砲といふのは、火藥を用ひないで、電氣の力で彈丸を發射させようといふもので、理論的には大威力の無煙無音の砲彈が飛び出すわけであるが、實現はなか〳〵困難である。一例として、今までに考へられたものをご紹介しよう。その原理は、第十三圖の如くフレミングの左手の法則を應用したものである。即ち、電流の流れてゐる導體を磁場に置くと、その導體は電流と磁場方向との直角方向に移動するといふ法則を應用したもので、或る方法でHの如き方向の磁場を作り、その磁場内に彈丸を置き、これにIの如き方向の電流を通ずると、相互作用で彈丸はFの方向の力を受けて、その方向に向つて飛び出すのである。構造は第十四圖の如きもので、矢印の如く電流を通じると、AA'の周圍に矢の如き磁場ができるので、この相互作用によつて彈丸は飛び出すのであるが、彈丸が出てしまふと回路は斷たれ、電流、從つて磁場も消滅する。この彈丸の速度は、電流が強ければ強いほど増加するのは勿論である。電氣砲と稱するものには、このほかに電磁石の理を應用した考へや、電動機の原理を應用した考案等、種々の方法があるが、いづれにしても、理論的には成り立つが、數百萬アンペアといふ驚くべき強大な電流を、如何なる方法によつて發生させるか、或ひは電氣回路の切斷方法や火花の始末、電氣的故障の除去等、技術的に解決の困難な問題が多々殘されてゐるのである



陸軍兵器行政本部
陸軍兵技中尉　**塚原和夫**

國民映畫

熱風　東寶作品

情報局國民映畫選定

[illegible]鐵鋼増産の[illegible]であり、本映畫は[illegible]を描き、熱鐵生産を競ひつゝある人々の滅私奉公の姿を、巨大な製鐵所の中に逞しく描いたものとして、日本映畫に新たにみる作品である

あなたの力　日本映畫社製作

情報局指導　戰ふ日本　第十四輯

大東亞戰爭完遂のために、男は[illegible]第一線へ赴き、或ひは戰力増強[illegible]に挺身しなければならない。[illegible]をもつてはならない。敵も必死だ。男に代つて、女で出來る仕事は女の手で、この戰ひを戰ひ拔かう。本映畫は決戰下女性勤勞の意義と必要を説いたものである

[illegible]

寫眞週報

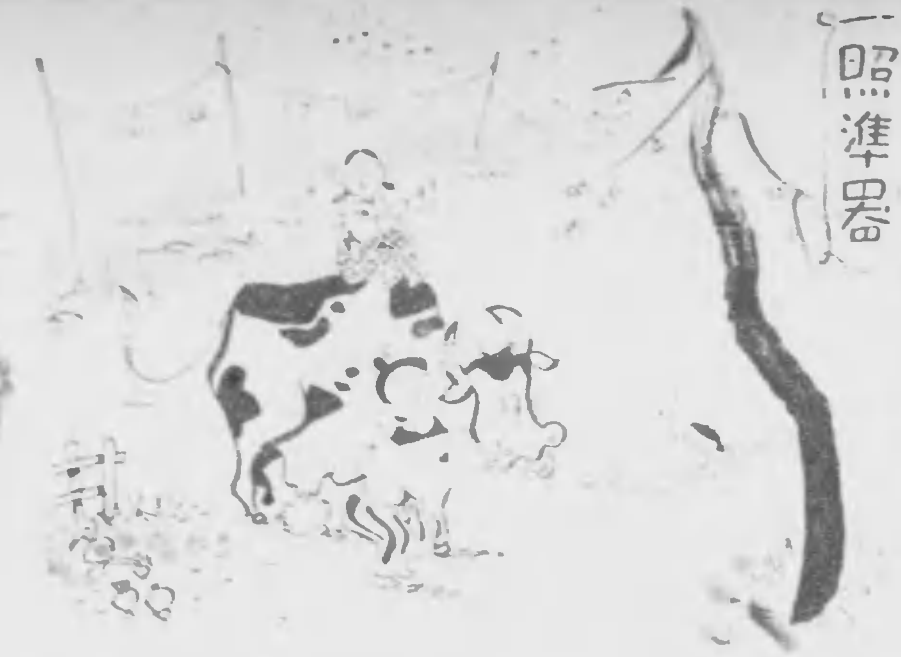
★表紙

比島初代大統領ホセ・ペー・ラウレル博士の微笑。それは又四百年の忍從の歴史からいま解放された比島二千万國民の心からの微笑でもある

博士は昨年一月比島行政府成立以來、司法長官、内務長官を歴任、ついで比島獨立準備委員會成るや、委員長として憲法草案の起草に努力、この度新生比島の初代大統領に就任したものである。氏は徹底した東洋主義者で、はやくから米國の假面政策を攻撃してきた。本年五十三歳の働きざかりである

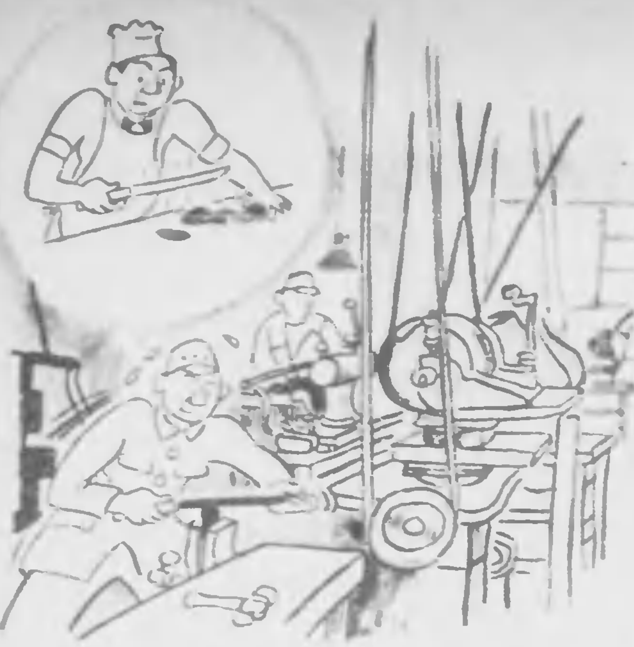
照準器

増産の秋



⇦ **働く忠牛**　白路徹

「家のクロは仕事のないときでもこんなに役に立つて働いてくれます。増産のお父さん、安心して下さい」

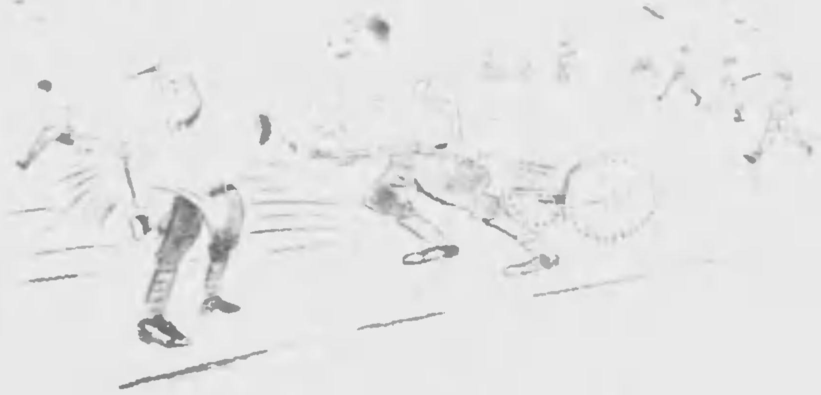


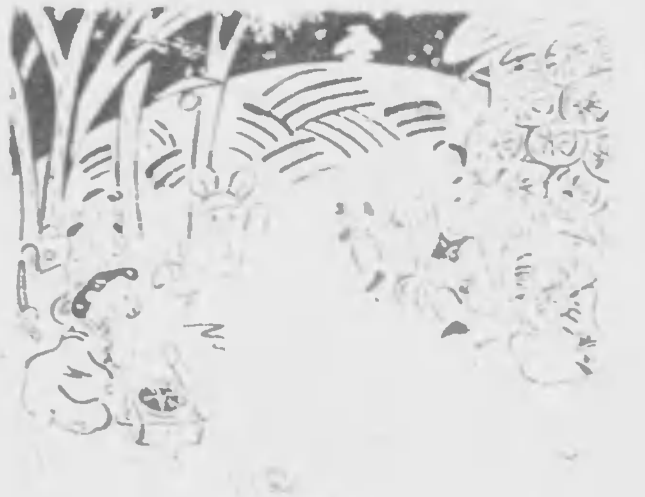
⇧ **料理人の轉進**　秋玲二

「庖丁を持たせりや立派な腕前だつたがたゞこのヤスリだつて一生懸命にやつて、今に庖丁以上の腕前になつてみせるぞッ」

逆返　西川辰美　⇩

「昔は遊里に足しげく通つた男[illegible]久しぶりだな、お前も[illegible]立派になつたのう、見れば[illegible]昔は太鼓持ちだつた男[illegible]」



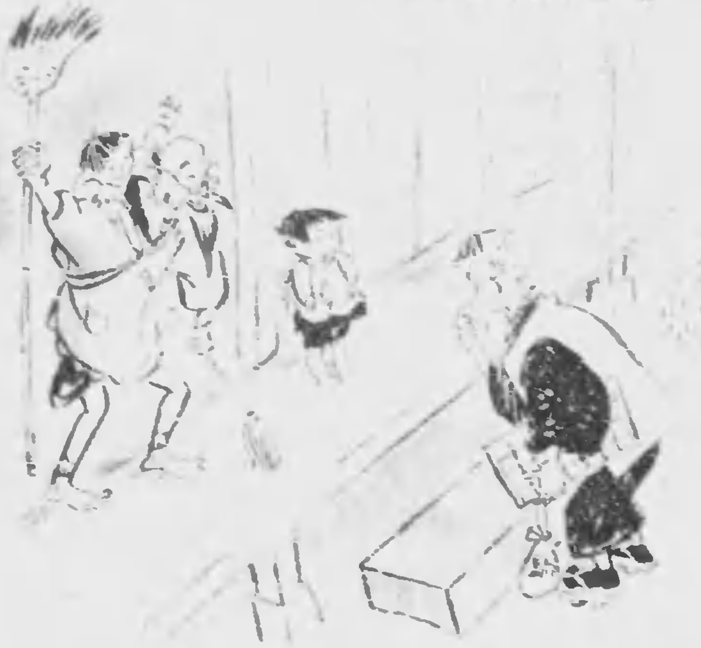


⇧ **感謝藝能慰問**　寺尾よしたか

「私たちはずぶの素人で、うまくゆくかどうかは分りませんが、皆さん方の勤勞に感謝の心持だけでやつて御覧にいれます。さーあ、題して『兎の餅つき』始まり始まーり」

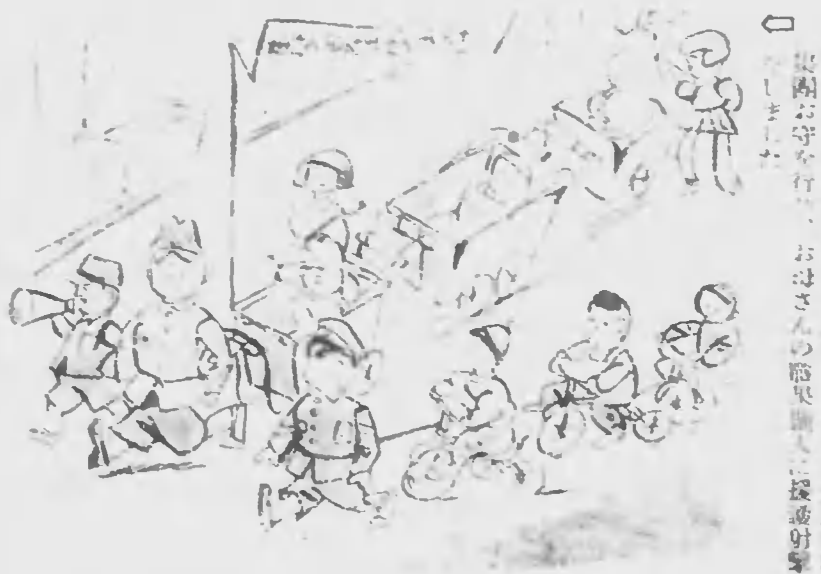
老人の戰場　南義郎　⇩

「わしも昨日から職場配置についたんでな、盤上の戰鬪は職の工場の休電日にして下さらんか」

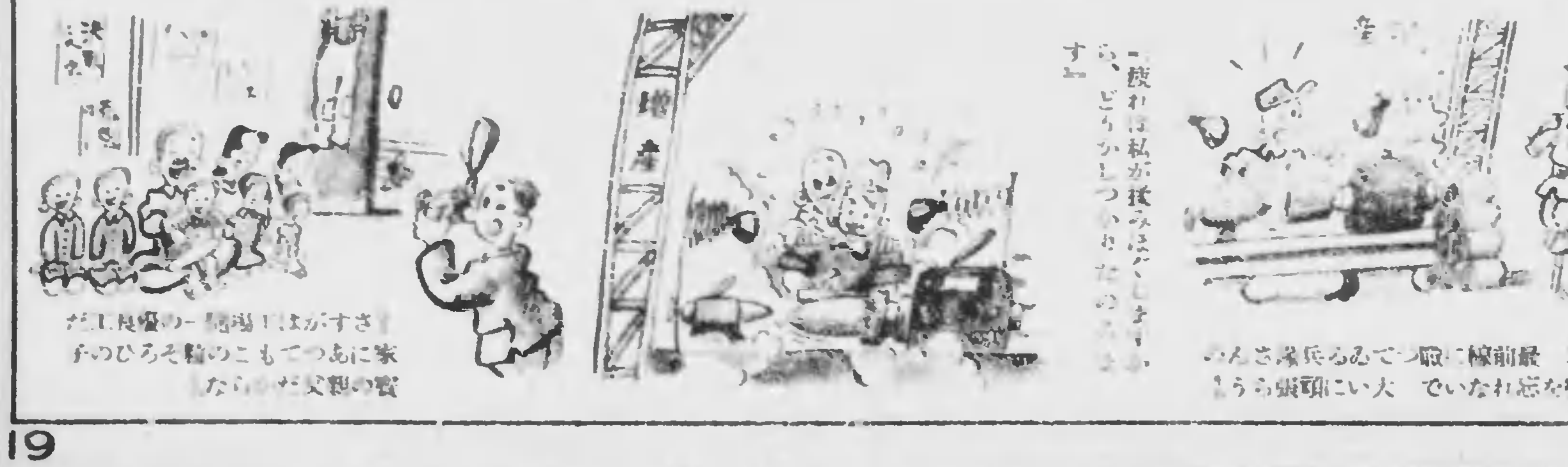


⇦ **集團お守**　森熊猛

お母さん方の集團内職に應へて、少年少女諸君は集團お守を行ひ、お母さんの職場進出に援護射撃をしました



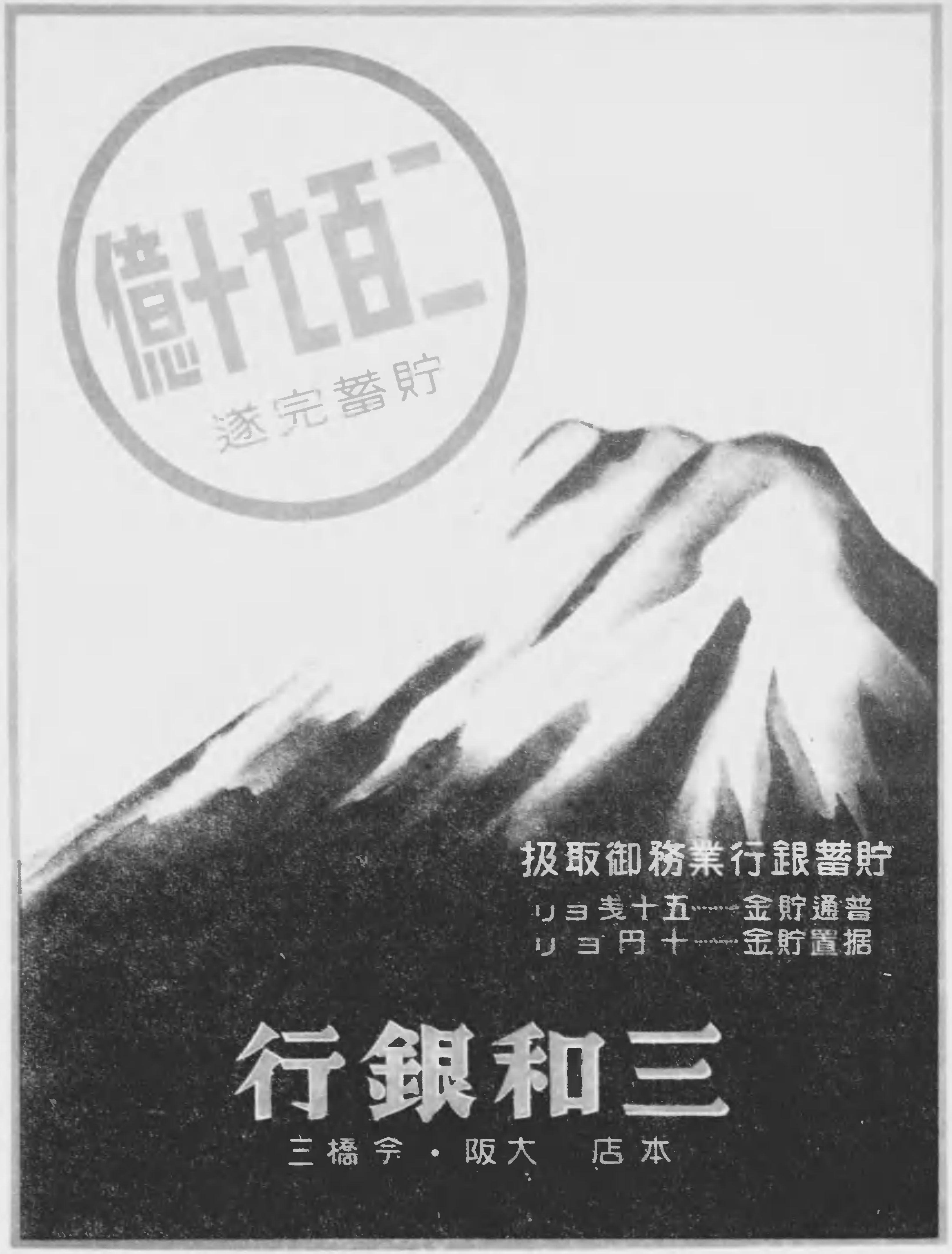
増産一家　植木敏



さあ最前線に戰つてゐる兵隊さん ご苦勞な忘れないで大いに頑張らう

「疲れは私が揉みほぐしますから、どうかしつかりたのみます」

さすがは一騎當千の工員だ 家にあつてもこの筋そろひの子 實の父親だからな



二百七十億

貯蓄完遂

貯蓄銀行業務御取扱

普通貯金……五十銭ヨリ

据置貯金……十円ヨリ

三和銀行

本店　大阪・今橋三

寫眞週報（禁無斷轉載）

昭和十八年十月廿七日　印刷發行

編輯者　情報局　東京都麹町區永田町一ノ一

印刷者　發行者　内閣印刷局　東京都麹町區大手町

定價	申込所
一部十錢（送料一錢） （外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢） ▲特大號の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます	全國各地官報販賣所 書店・驛賣店 新聞販賣店 寫眞材料店

本誌掲載の寫眞中、撮影者名或ひは提供者名を特に附してゐないものは財團法人寫眞協會の製作によるものです

又海軍關係の寫眞複製は海軍省承認濟第五二四號です

本誌を回覧に

本誌を、隣組や職場でご回覧するなど、出來るだけ有効に御利用下さい

前線慰問にも

また、お讀みになったら本誌を前線慰問に送りませう。送料は內地と同様で、封筒あるひは開封にして「第三種」と明記すれば二錢です

（本書の大きさは規定版のＡ４・週報型）

内閣印刷局印刷發行